

平成20年度 札幌市学習実現状況調査

概 要 版

平成21年10月

札幌市教育委員会

調査の概要

1 目的

札幌市の教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習状況を把握し、指導上の課題等を明らかにした上で、今後の教育課程の編成や指導の改善に資する。

2 対象及び教科

- ・ 小学校第5学年 社会・理科・調査対象教科に関する学習意識調査
- ・ 中学校第2学年 社会・理科・英語・調査対象教科に関する学習意識調査

3 実施日程

平成21年2月24日

4 受検人数等

	社会	理科	英語
小学校第5学年	1076人	1077人	-
中学校第2学年	1081人	1082人	1085人

調査対象は、各学年在籍児童生徒数の約7%

対象学校及び学級については無作為抽出

5 用語の説明

用語	説明
設定通過率	設定通過率は、各設問においてあらかじめ設定された、学年として期待される通過率（正答率）を領域や観点などの項目ごとに括って平均したものである。
札幌市の通過率	札幌市の通過率は、各設問における本市児童生徒の通過率（正答率）を領域や観定の項目ごとに括って平均したものである。

課題と改善の方向

今回の調査における課題

改善の方向

小学

社会

社会的事象について、知識を用語として覚えるのではなく、関連する理由や背景とあわせて理解すること
グラフなどの資料から、分かることを読み取る力を付けること
社会的事象について、知識や考えをまとめ、表現する力を付けること

実際の地図や写真を活用し、知識を用語としてではなく、関連する事柄とあわせてとらえる指導の充実
資料を様々な観点から見て、分かることを読み取って話し合うなどの指導の充実
資料から分かることを読み取ってまとめたり、テーマを設定して調べたことを、分かりやすくまとめて発表したりする活動の充実

理科

理科

自然事象についての知識・理解の力を付けること
物質とエネルギーの領域、特に、てこのはたらきについての理解を確かなものにする
実験や観察に積極的に取り組み、結果を分かりやすくまとめる力を付けること

各単元において、より実感を伴った理解をさせるため、観察・実験を通じた「生きた知識」を確実に身に付けさせる指導のより一層の充実
てこを使った実験から、てこの仕組みやはたらきを実感し、さらにてこがつりあう数的な条件を導き出せるようにする指導の充実
実験や観察の意義を児童自身が理解できるように導くとともに、その結果を図や表、グラフを使ってまとめるようにする指導のより一層の充実

中学

社会

資料から地理的事象を適切に読み取り、分かることを判断する力を付けること
歴史的事象について、知識を単独で理解するのではなく、因果関係を把握すること
地理的事象、歴史的事象について、知識や考えをまとめ、表現する力を付けること

複数の資料から必要な情報を見付け出し、分かることを読み取って話し合うなどの活動の充実
実物資料や写真などを活用し、体感的に理解させるとともに、知識を用語としてではなく、関連する事柄とあわせてとらえる指導の充実
テーマを設定して調べたことを、分かりやすくまとめて発表したりする活動の充実

理科

今まで身に付けた基礎的な力を基に、さらに科学的な思考力を伸ばしていくこと
火山灰・化石・地震など、大地の変化に関する理解を確かなものにする
自然現象に対する興味・関心を積極的な学習につなげていくこと

個々の知識や考え方を単独で覚えるのではなく、相互に関連付けながら総合的に理解する指導の充実
野外活動やコンピュータシミュレーション、はぎ取り地層の作成など、実際に大地の様子に触れる機会の充実
生徒が受け身になるのではなく、自ら仮説を立て、積極的に参加できるような授業づくり

英語

英語

まとまった英文を読んで、内容を正確に理解すること
場面や状況に合った適切な表現を考え、英語で書くこと
基本的な単語、熟語の用法や慣用表現などを適切に身に付けること

まとまった英文の情報を整理し、文章のあらすじや大切な部分を正確に読み取る指導の充実
自分の考えや意思等を書く活動を通し、場面や状況に合った適切な英語で表現できる指導の充実
多様な言語活動を通し、基本的な単語、熟語、慣用表現を繰り返し活用するなどの指導の充実